



～ 夢ひとすじに ～

宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 25 年度 第 5 号
平成 25 年 9 月 2 日 (月) 発行
さいたま市立宮原中学校
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

「ドラえもん」の教え

校長 やました 山下 せいじ 誠二

長い夏休みが終わり、生徒たちは元気に始業式に参加してくれました。特に1年生は、初めての中学生としての夏休みを経験し、真っ黒に日焼けした顔や、身長の伸びも見られ、たくましく感じました。また、2年生は、部活動の中心となり、活動にもさらに力が入ってきました。3年生は、自分の進路に向けて、真剣に考える下地が出来上がってきたように感じます。2学期もさらに大きく成長できるように学校・家庭・地域が一体となって生徒の成長を支援していきたいと考えています。ご協力をお願いいたします。

さて、漫画のドラえもんは、四次元ポケットを使って、のび太の夢をすべて叶えてくれるのだと誤解している部分があると思います。しかし、マンガを詳細に見ていくと、ドラえもんが叶えさせない夢があります。それは、次のような夢です。

「自分のわがままで他人を傷つけたり、不幸にしたりするような夢」

例えば、のび太が、「ジャイアンやすね夫を自分の言うことを何でも無条件に聞くロボットのように改造してほしい」と、ドラえもんに頼んだことがありました。しかし、こんな夢の実現を頼まれても、ドラえもんは断固拒否します。そして、反対にのび太を叱って、反省を促します。そして、のび太もまた、最終的にはドラえもんの言葉に従うことになるのです。

かつて、私たち日本人は、子供が行くべき方向を誤ったとき、子供にか

ける何種類もの言葉を持っていました。例えば、「窘める(たしなめる)」

「注意する(ちゅういする)」「諭す(さとす)」「教え諭す(おしえさとす)」

「言い聞かせる(いいきかせる)」「叱る(しかる)」「戒める(いましめる)」

「怒る(おこる)」「咎める(とがめる)」「問い質す(といただす)」「懲らしめる(こらしめる)」

「搾る(しぼる)」「取っちめる(とっちめる)」「詰る(なじる)」など。

子供を導くのに、これだけ多くの言葉をもつ国はないと思います。そこには、子供の年齢や性格、悪いことの中身に応じて、丁寧に使い分ける愛情があるからだと思います。

先日、本校の教諭が、生徒を諭しているのに出会いました。もちろん、悪いと指摘しているのは、子供の人間性に対してではなく、子供の行為そのものに対してです。私たち大人は、丁寧に子供にかける言葉を選び、愛情を秘めて子供に対したいものです。

学校でも家庭でも地域でも、「だめなことは、だめ」「ならぬことは、ならぬ」ことを子供に伝えることが、教育の基本ということを忘れずに・・・。